

新基地建設反対名護共同センターニュース

デニー知事はあらゆる権限を發揮し 数々の違法・脱法行為にストップを！



現場の闘いを強化し知事を支えよう！

キャンプ・シュワブゲート前では4月2日、うるま市から20人、沖縄市から18人など約100人が結集、抗議行動を展開。ほとんどが高齢者。中には車椅子の島袋文子おばあや視覚障がい者の女性もいました。8時35分、全員で腕を組み「座り込めここへ」など歌い「違法工事を中止しろ！」「サンゴを殺すな」「勝利するまでたたかろ！」とシュプレヒコールを唱和しました。

何度排除されようと座り込み続く

午前8時45分、ミキサー車やダンプカー数十台がゲート前に到着。午前8時55分、機動隊員約100人が基地内から出てくる。9時5分、座り込む人々の排除を開始。9時25分、作業用ゲートから作業車両数十台が基地内に入りました。それでも県民は反対側歩道からシュプレヒコールを上げ、たたかいの歌声を響かせました。

デニー知事の権限行使のためにも 世論を広げることが不可欠

テント村で北上田氏が発言

2日、テント村での交流で平和市民連絡会の北上田毅氏（写真）が発言しました。北上田氏は、琉球セメントの旧栈橋の撤去や本部町塩川港でのベルトコンベアーの使用問題で県はデニー知事の公約と政策に沿って毅然と対応することが大事な局面に入っていると話しました。また今後、政府による軟弱地盤の設計変更申請やサンゴの移植許可でも県が知事の行政権限を駆使し、辺野古新基地建設を認めない立場から不承認するだろう。



問題は県民がこれを支えていくことができるかどうかだ、とデニー知事を支える、現場でのたたかいを継続発展させ、県民世論を広げることの重要性を強調しました。

テント村では辺野古新基地建設を中止させるために当面、6月7日投票で行われる沖縄県議選でデニー知事与党の「オール沖縄」勢力を勝利、前進させることの重要性を確認し合いました。

「技術検討会はお墨付き与える場」

資料ミスの是認を立石名誉教授が批判

沖縄防衛局が設置した軟弱地盤についての技術検討会（委員長・清宮理早稲田大学名誉教授）への提出資料に20か所の誤りが見つかった問題で、検討会では「これまでの議論に影響はない」との審議結果を出しました。これについて技術検討会に質問状を送った立石雅昭新潟大学名誉教授（写真）は、「検討会の審議がいかんぞうさんだつたかを示している」と指摘、さらに「検討会は防衛局が整理・提出した資料に沿ってお墨付きを与える場にしかないことを示している」と批判しています。（琉球新報から）



森林法に違反？本部鉱山の開発

北上田氏は、辺野古埋め立て用土砂を搬出している琉球セメント安和鉱山（写真=名護市・本部町）のうち、本部町の開発行為は森林法違反の可能性を指摘しました。森林法では民有地であっても民有林1畝以上の開発行為を行うときは知事の許可を受けなければならない、違反した場合懲役・罰金刑に処せられます。鉱山や採石場も適用されますが、県森林管理課は安和鉱山の林地開発手続きが行われたことはないと言います。



沖縄平和市民連絡会では3月30日、知事に對しこの問題で早急に調査することを要請しました。

安倍政権は新基地建設工事を中止せよ！

【ヘリ基地反対協ブログより】コロナウイルスは全世界に広がり、オリンピックの延期含め大きな影響を与えています。私たちはゲート前での行動の自粛、海上大行動の中止など節度ある対応をとっています。しかし、沖縄防衛局・安倍内閣は辺野古新基地建設の強行などなりふり構わない行動をとっています。これは法治国家として、誇りある日本としてどうなのでしょう。常日ごろ安倍内閣は、沖縄県民に寄り添うと言いつつ実際の行動は真逆になっています。それが安倍内閣の実態と言えればそれまでですが、あまりにもひどいと言わざるをえません。（写真は3月30日K9護岸付近）。なお、反対協は4月8日（水）に防衛局へ工事中止を要請する予定です。

